

## ■旧役場庁舎の解体始まる

昨年の12月に新庁舎での業務が開始され、旧庁舎では商工会と大塚沖土地改良区の事務所が残ったままとなっていました。それぞれ引越しが完了し、9月より解体作業が始まりました。

旧役場庁舎は、3村が合併した10年後の昭和41年に完成し、54年間に渡り木島平村を支えてくれました。

解体後の跡地には駐車場や防災用品を備蓄するための倉庫が整備されます。来年度中にすべての工事が完了し、役場周辺整備事業も完了となります。

帰郷の際には、新しくなる役場周辺もぜひご覧になってください。また新しい庁舎のご案内もいたしますので、ご希望の場合は担当までご連絡ください。



## ■ふるさと納税で実家や墓地の管理を

ふるさと納税の返礼品として、木島平にある実家や墓地の清掃や草刈りをするサービスが追加されました。コロナ禍により、木島平へ帰れない方や、忙しくて毎年は帰れない方など、ふるさと納税で木島平村へ寄付しながら、実家や墓地の管理をお願いしてみませんか。

詳細は次のとおりです。

### ◎空き家の管理（見回り）草刈り代行

- ①納税額 5万5000円
- ②内容 見回り（5回） 草刈り（3回）
- ③期間 申込から1年間（冬期間は除く）

### ◎墓地の管理（清掃等）代行

- ①納税額 1万7000円
- ②内容 お盆と希望する日の墓地の清掃、草取り、焼香など
- ③期間 申込から1年間（冬期間は除く）

業務委託機関（公社）飯山地域シルバー人材センター

いずれも、申込者による業務実施前の現場立会いが必要です。

（親戚も可）

詳しくはふるさと納税サイト「ふるさとチョイス」をご覧いただくか、村の産業企画室までお問合せください。

## 寄稿

小林 荘志 埼玉県さいたま市（内山区出身）

まったく困りました。この暑い真夏にも、マスクは手放せない。新型コロナウイルス感染症予防対策で、マスクをつけ始めた春先とは、よもや、盛夏もこの生活とは正直予想外である。不要不急の外出を控え、ステイホームを心掛けても、仕事や買い物で家を出ればマスクの顔には強い紫外線が降り注ぐ。鏡の前で眺めるわが顔が健康的な上半分と生白い下半分、ほんのり2色に分かれてきている。新型コロナウイルス対策で、クーラーの効いた住宅が多くなり、書物も見ろ時間が増えた。私の今熱中している書籍は、先月、村の教育委員会で発刊された、原大沢の御魂山にある村天然記念物のエドヒガンサクラのカラー表紙の「新編木島平史話くふるさと」の村を歩く」です。この本を読んで、50年前の「木島平史話」よりも沢山の木島平村で活躍された人達や文人達の活動に深く吸い込まれ、「村造りに尽くされた人達」の業績を知るにつけ、私自身に、この地で生まれ育ったことの何とも言えない誇りのようなものが生まれ、満足感につかることが出来ました。特に文章は解かり易い筆致で表現されており、特にここまで深く知らなかった内容を知ることが出来た事には心から感謝です。さすが知識経験豊富な樋口先生の姿、人柄さえ惚ばれました。

私は穂高内山の出身で、農林高校を卒業するまで、岳北地域の歴史や存在も知らないで、野山集落を駆け回っていました。戦国武将あの市川筑前守が龍興寺を清水の湧出る内山の地に建立した事や、内山障子紙の発祥をはじめ、身近にあったものを、改

めて知る事が出来て、思い惚んでいます。

今年は新型コロナウイルス感染症問題で、義姉の新盆供養にも帰省できず、残念の極みです。本来ならゆつくり実家で皆と銘酒「内山の雫」で杯を交わし、皆の無事を喜んでの談笑も、また夜の盆踊りも無しのお盆となりました。

私は、ふるさと木島平村が更に自立発展し、全村民が平和に暮らす自慢できる住みよい村の姿をいつも夢見願っています。遠くさいたま市に住む自分ですが、心中にはいつも郷里があります。役場に行くたびに「また煩い奴が来た」と嫌われているので、嫌がられても続けていきます。生まれ育った故郷が一番だと思ふし、これからも「ふるさと応援団」の一人として、皆様と共に愛し支援して行けたらと思ひます。



平成の名水100選に指定された内山龍興寺清水の桜と内山紙発祥の地の石碑、清水汲取場

### 会報原稿募集中!

【毎月5日までに左記へ送付ください。】

【送付先】〒389 2392 木島平村役場内 ふるさと応援団事務局

FAX 0269824121

✉ seisaku@vil.kijimadaira.lg.jp